

「おもしろそう」という思いで、 ご長男と創業

今や年商51億を超える衛生用品の卸売り会社に

専業主婦・菊野信江氏の人生を変えたのは占い師の一言かもしれない。温かな表情で取材に応じた菊野社長だが、社長業は予想外の出来事の連続だった。

ご長男の何気ない言葉で起業

泉州玉ねぎや泉州タオルで知られる泉佐野。今では関西空港のお膝元として知られる町だが、株式会社エブノは同空港が開港した1年後に創業している。

話は少しさかのぼる。25年前の夏のある日、菊野信江氏が石切神社に行き、たまたま入った占いの店で涼んでいたとき、占い師から「このままではもったいない」と言われたそうだ。(何がもったいないのか、また、何をしたいのかわからないのに)と、専業主婦だった菊野氏には占い師の言っていることが理解できなかったと言う。だが、「もったいない」という言葉だけが心に残った。

菊野氏には2人のご子息がおられる。大学を卒業され、貿易に興味を持っていたご長男が、ある日「会社をつくりたいんやけど」と口にした。「それやったらやってみようか」と、20年前の菊野氏はすぐに応えた。

ご長男にとっては驚きだっただろう。家事を切り盛りしていた母親から「起業」の言葉が出るとは思ってもなかったに違いない。きっと、石切の占い師から言われた先の言葉が菊野氏の背中を押したのだろう。

「私、ずっと主婦をやっています、これから何も変わらないだろうなと思っていました。そんなときに、会社をつくりたいという長男の言葉でしょう。商売のことは何



代表取締役社長 菊野 信江 氏

もわかりませんでした。会社をつくることを想像したら、すごい楽しそうやなと思ったんです」と菊野氏。社会人としての経験が長い人間なら躊躇したかもしれないが、菊野氏は、たぶん瞳をキラキラと輝かせながら、「おもしろそう」「楽しそう」と口にしながら、2人だけで起業した。社長は菊野信江氏だ。

どこにもない名前をとということで考え出された社名が「エブノ」。菊野氏の名前の逆読みだ。EBUNOのローマ字が「きれいやなと思いました」と言う。

無謀とも思える菊野社長とご長男の夢のアドバイザーになったのは、ご主人の義信氏だ。医療ゴムの会社に勤務していた義信氏は、菊野社長に得意先の社長を紹介。菊野社長はそこから婦人服や衛生用品などを仕入れた。

菊野社長とご長男は有限会社の創業資金300万円を



本社工屋

ハイエースの購入に充て、営業を開始。しかし、商売はそれほど甘くはなかった。時代が不景気だったこともあり、売り上げは思いどおりに伸びなかったようだ。

そんなある日、インテックス大阪で製菓製パンのモバックショウが開催された。菊野社長もブースを1コマ借り、手袋・マスク・エプロン等を展示したところ、たしかな手応えを感じたという。来場者からいただいた名刺の束を手に、営業電話をかけた。反応は悪くない。だが、大手企業になればなるほどコスト面でシビアになった。

「仕入れた商品ではなく、自分のブランドを持たない限り、商売は広がらない」と菊野社長は実感したという。

そこで、知人が経営している中国の工場に多品種の手袋の製造を依頼。かくして、コンテナ船でEBUNOブランドが日本に運び込まれることになった。

歴史だけを聞いていると順風満帆のように思えるが、菊野社長自身は夜も眠れない日もあったそうだ。

日本初調理用ニトリル手袋を導入

そんなエブノに転機が訪れたのは、1999年のことだ。国立医薬品食品衛生研究所より、コンビニ弁当から生体系に問題のある物質が検出されたとの発表があり、大手コンビニエンスストアのセブン・イレブンより、塩ビ製調理用手袋から、新素材の手袋への転換の要請があった。

エブノとしてはニトリル手袋(合成ゴム)を推奨したと

ころ、採用されたのである。セブン・イレブンの推奨商品になったことで、エブノのネームバリューはたちまち全国に広がった。

その矢先、新聞に『塩ビ製品自粛ー厚生省』という見出しが躍った。「あの文字が今でも目に浮かびます」と菊野社長。新聞を読んだ食品加工工場等からエブノへの問い合わせや発注電話が殺到した。倉庫に山積みになっていた1万ケース近くのニトリル手袋はあっという間に完売した。儲けることはできなかったが、お金の代わったのである。

ニトリル手袋が脚光を浴び、現在に至っているわけだ。エブノはニトリル手袋を食品加工用として、日本で最初に手掛けたのである。

家族全員でエブノを経営

この時期、人の動きもあった。業界に詳しいご主人の義信氏がエブノに入社し、専務(現会長)として営業の指揮を執るようになった。また、中国に「愛保諾(上海)貿易有限公司」という貿易会社を設立。ご長男が董事長(社長)に就任する。世界相手に貿易の仕事をと願っていた夢がついに叶ったわけだ。さらに次男も参加した。次男は関西国際空港に近接するホテルの1期生であり、フランス料理の厨房で2年間ほど務めていたが、職を辞し、エブノに入社した。現在はドラッグストアや量販店向けの

商品を卸す関連会社テイクワンの社長になっており、また、飲食店も経営している。

この時点で家族全員がエブノの経営に関わったわけだ。営業や倉庫を担当する一般社員を含め、わずか10名ちょっとの会社がエブノの地盤を築いていった。

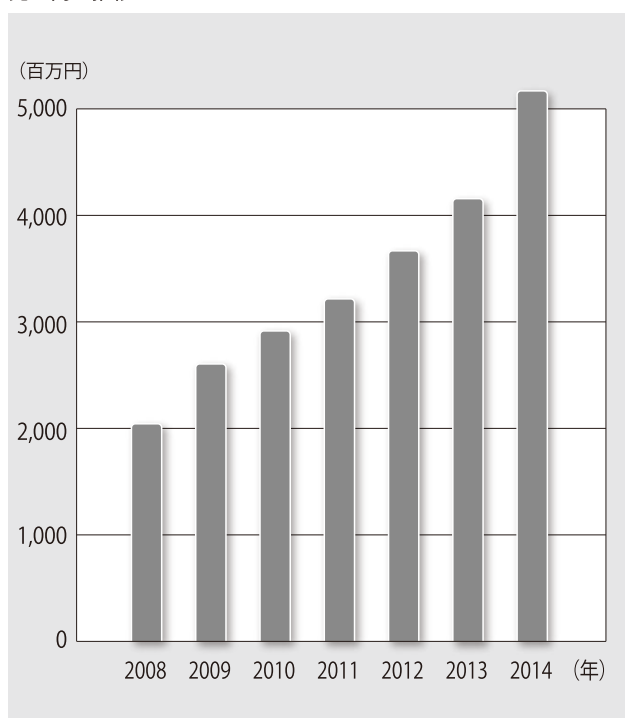
現在の社員数は本社・営業所・物流センターを合わせて40名ほど。

営業所も開設している。福岡市博多区の福岡営業所、東京都千代田区の東京営業所だ。2012年には泉佐野市に「中庄物流センター」もオープンさせた。さらに2013年

には、「エブノ泉の森ホール」のネーミングライツを取得した。「これからも一人ひとりのお客様を大切に、企業活動を続けてまいりたいと思っております」。

また、営業先も食品加工会社から、医療介護関係、ハイテク産業など原子力発電所へ広げ、売上高は毎年約10%ずつ伸びている。年によってはそれを超える年度もあり、2013年度6月期の売上高約41億円に対し、2014年度6月期は51億円に達している。「私自身もちょっと驚いています。今後は売り上げより、利益重視でいきたいなと考えています」と、菊野社長は抱負を語る。

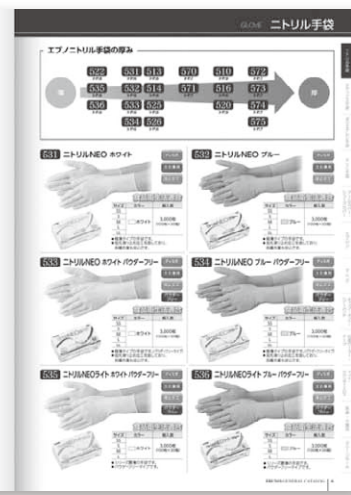
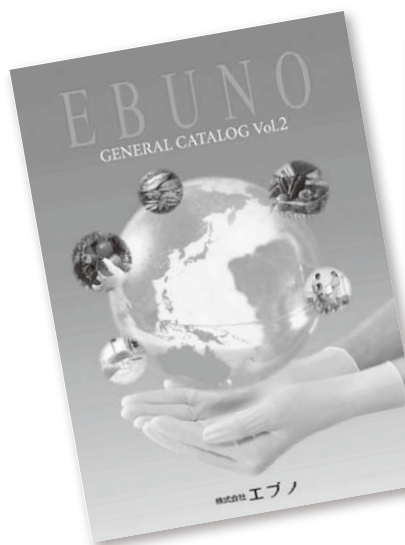
売上高の推移



社員の男女比は5対5

女性社長の目から見た女性社員について語ってもらった。約40人ほどいる社員の男女比は5対5。女性社員は、営業よりも事務系に配属される方が多いそうだ。

主任、係長、課長といった役職を持っている女性も多い。任命するのは菊野社長だ。「私も女ですから、この子はこの方面に向いているとか、いろいろ配属を考えます。海外部の課長も女性です。2002年に入社したとき、外国との取引形態は何も理解していませんでしたけれど、海外部に配属して、貿易の講習を受けに行かせました。税関の調査が入ったとき、調査官の人から『優秀ですね』と褒めていただいたことがありました。私の目に間違いはなかったな、と」。





中庄物流センター

また、月に1回第4土曜日は1日かけて役員会議、責任者会議、営業会議が行われているそうだ。責任者会議ではお客様が何を求めているか、部署ごとに何が起きているかなど、さまざまな意見交換が活発に行われている。それ以外に、毎週月曜日に営業会議(テレビ会議)を行っている。

本音を交わせる風通しの良さもエブノ成長の一端になっているに違いない。

定着率が高い女性社員

女性が多いという職場環境だが、他社との違いはあるのだろうか。菊野社長は言う。「就業規則の中の一つに育児休暇制度を導入し、本人の希望に合わせてではありませんが、子どもが1歳になるまでの期間、育児に専念できる環境づくりができればと考えました。導入後の取得率は今のところ100%で、皆喜んでいます。もちろん、復帰後は元のポジションに戻っています」。

耳慣れないのは「変形労働時間制」という制度だ。これは、仕事の忙しさに合わせて組まれたシフトに基づいて勤務する仕組みで、これにより早く帰れる日、遅くまで仕事をしなければならない日を事前に知ることができる。したがって、仕事終わりの時間を有効に活用できると社員には好評のようだ。

「昔は『エブノは若い社員ばかりですね』と言ってもらっていましたが、結婚されて、子どもができてエブノに

戻ってきます。海外で留学した子もまた、戻ってきました。それだけ居心地がいいんでしょうね」。経営者というよりも、お母さんのような口調で菊野社長は言う。

仕事の話に戻ろう。新しく開発したポリエチレン手袋「シルキータッチ」が好調だ。これは皮膚感覚に近い手袋で、伸縮は自由。微細なエンボス加工も施されている。どこか冷たい感じのする衛生手袋だが、体温を伝えられるという点がいい。医療介護する手にも体温があれば、サービスを受ける人の思いもまた違ったものになるだろう。開発の流れまでは聞かなかったが、やはりその根底には、女性ならではの優しさがあるに違いない。

COMPANY PROFILE

株式会社エブノ

- 本社住所 大阪府泉佐野市市場西1-9-8
- 電話 072-458-0588
- 創立 1995年(平成7年)10月
- 資本金 3,000万円
- 代表者 代表取締役社長 菊野信江
- 事務所 本社(大阪府泉佐野市)・
東京営業所(東京都千代田区)・
福岡営業所(福岡県福岡市)
- 関連会社 愛保諾(上海)貿易有限公司・
株式会社テイクワン
- 従業員数 40名(2014年10月現在)
- 取扱品目 衛生関連商品・ハイテク関連商品
原子力関連商品・介護関連商品